

京都府電気事業経営戦略の策定について

令和3年3月
府民環境部

1 趣旨

- (1) 太鼓山発電所（風力）が令和2年3月をもって、18年5箇月の運転期間を終了し、府電気事業の大きな節目を迎えると共に、電力システム改革により電気事業を取り巻く環境が大きく変化している。
- (2) 大野発電所（水力）は、運転開始から既に59年以上が経過し、老朽化に伴う施設の更新投資の増加が見込まれる中、公営企業の基本原則である独立採算を維持し、健全な経営と安心安全な電力供給体制の両立を維持していくためには、中長期的な視点から経営を考えることが必要となる。
- (3) 以上を踏まえ、将来にわたり健全な事業運営を継続できるよう、現在の経営状況、今後の具体的な収支計画及び施設改良計画と課題を示す「京都府電気事業経営戦略※」を策定するもの。

※総務省の要請により、令和2年度中に策定が必要

2 経営戦略の概要

(1) 対象期間

令和3年度から令和12年度までの10年間

(2) 概要

- ・ 水力発電事業は大手電力会社との長期基本契約の下、安定した売電収益により平成30年度まで黒字基調であった。一方、風力発電事業は故障停止等により運転開始当初から経営赤字が続き、電気事業全体では赤字で推移。
- ・ 今後10年間（R3～R12）に見込まれる投資額の見通しと、これを実施した場合の収支見通しを試算。

| R3～R12 投資見通し | | | | | R3～R12 収支見通し | |
|--------------|----------|----------|---------|---|--|--|
| 総額 | 発電設備 | 計装設備 | その他 | ⇒ | 利益総額2.7億円 | |
| 711 百万円 | (177百万円) | (455百万円) | (79百万円) | | 料金単価の設定 ・R3～R4：11.0円（現契約単価） ・R5～R12：8.48円（見込み単価） | |

今後は水力発電事業のみで事業を継続することになるが、一定期間に工事を集中させて発電停止期間を抑制した更新を実行することで、対象期間中は安定した経営が可能と見込まれる。

なお、長期的には多額の更新投資が必要になり、収支の悪化や資金不足が懸念される。

3 その他

経営戦略の別冊として、風力発電事業の総括資料を作成。

(1) 運転開始から現在までの経営状況

度重なる故障や事故により収支は赤字で推移。

（令和3年度累積欠損金見込み：約12.8億円）

(2) 事業の成果

本府事業による国内風力発電技術発展への寄与に、有識者等から一定の評価。